

## グループ発表および講評

### テーマ②-2：

## みんなで市民参加と協働のまちづくりを活性化し、 支え合うには…『資金面』

### <Cグループ（菜の花）>

市民活動の資金とは何かを考えると、税金と寄付が私たちの活動の資金と関係してくる。市民は市民税をたくさん納めている。また、市民の気持ちを表す方法として募金という方法がある。寄付や募金をするには、具体的な目的やテーマがはっきりしていて、自分たちの身近なところで活動してくれるのであれば、お金出してもいいと思える。しかし、どの団体に、いくら資金を、どういう使い方で、どのように有効利用してくれるのかを考えていただきたい。資金支援の成果は、市でも数字を出してもらっているが、市民はそこまで頭が良くない。せっかく出してもらった数字も読み取れなかったら意味がないので、市民目線でのコメントが広報に入っているとすごく嬉しい。

市民活動をする立場としては、成果をきれいに書いて、具体的な報告をしても、結局はお金が欲しい。その資金を寄付以外にどのように集められるかを考え、祭りをしたらどうかということになった。守山では市民まつりや幼稚園や小学校のチャリティーバザーがあるので、そこでイベントを行い、集まったお金を使うということ。そうすれば、守山市も活性化するし、集まった方々も嬉しいし、市民活動団体も潤うことになる。市民の日常の活動の中に、まちづくりの資金面をフォローするネタがあるので、皆で頭をひねってみるといい。

基本的には、一石三鳥でいこうということ。募金を集めるために、何かイベントなどをするときには、ついでに三鳥を狙おうということ。

### <Dグループ（メロン）>

議論の内容を5つに分類した。寄付について、「集まったお金がどこに行くのか、寄付の目的が何なのか不透明」という意見が多く挙げられた。それが不透明であるために、「寄付をしても意味があるのかという不安感につながるのではないか」という話になった。「市民活動に参加することで、どんなメリットがあるのか、どんなことに反映されるのかが不透明であると、やってもどんな意味になるのかという思いにつながる」ということで、それらも明らかにする必要がある。「協力してほしい市民団体がどれだけあるのかが分からない」ということが、結局は資金も参加者も集まらないことにつながる。

具体的には、「守山に自転車置き場があまり多くないので、改善してほしい」という意見もあった。また、「障がい者の活動の場があまり多くないので、そこに資金を充てて活動場所を増やし、市民参加につなげていければいい」という話し合いが行われた。

## <E グループ (妙蓮)>

寄付について話し合いをした。寄付というテーマはすごく大変なものだと思っている。寄付の集め方について、「使われ方が明確である」「課題の解決につながると思う」という意見があった。集まった寄付金をどういう目的に使うかについて、「やった結果が皆さんに伝わるといい」「何に使うか目的を明確にする」といったように、皆で同じ意見が出された。皆が同じ想いを持っているということ。

市の予算については、「市の予算を増やしてほしい」「市民活動の支援対象を幅広く」「助成金の情報提供・収集」「ハンガリー条約を参考にしたらどうか」という意見が出た。ここが一番重要になる。

集まったお金の使い道について、「参加された方々やボランティアの方々に、お茶などを出したらどうか」という意見があった。また、「ボランティア養成、人材育成に使ったらどうか」という意見も大事だと思われる。

寄付の課題として、「最近是不況で資金面のスポンサーが少なくなった」「日本では寄付文化は馴染まない」「NPOなど活動資金については、各団体では寄付が続かない」という課題が挙げられた。

まとめると、「市の予算をもう少し組んでいただき、それを一部市民参加に当ててほしい」ということ。「それが一番うまくいく寄付になるのではないか」というグループの意見になった。

このご時世では、企業でも厳しい経営内容で、寄付をいただける企業が減っている。まちづくりは企業だけではなく、市民の方々と共にやっていかないといけないと思う。企業、行政だけでなく、市民の理解があれば、寄付も増えてくると思われるし、参加される機会も増えるのではないかと個人的には感じている。この三者、三角形の力をバランスよく正三角形で動いていけば、資金面でもうまくいくのではないかと考えている。

## <参加者の感想>

- ・第1回目から参加して、改めて知らないことが多いことが分かった。他の方の意見には核心を突いたものが多く、自分にとって勉強になったし、守山の活性化やまちづくりのあり方に対してより関心を持つきっかけになった。次回以降も日程が合えば、また参加したいと思う。(20代、男性)
- ・人前で話をする機会が本当にないので、市民懇談会に参加して発表することになるとは思ってもいなかった。寿命が3年ほど縮んだように思う。50才になったので、自分の意見が言えるようになって、参加したいと思うような年齢になったことを嬉しく思う。(50代、女性)
- ・元々は野洲市民で、守山には7～8年前に引っ越してきた。コーヒーの店を開いている。毎日たくさんのお客さんに来ていただいている、中には守山市の方も他の市の方もいて、

いろいろな方との交流ができていたような気がしていた。しかし、皆さんの発表を聞いていると、実はあまり交流ができていなかったのかなと感じた。私は無作為で選ばれて、急に市から通知が来た。今日も仕事があったので、途中で抜けて遅刻してきたが、参加することに意義があったと思う。皆さんが守山市をもっと良くしたいという気持ちを感じた。私も皆さんと守山市をもっと良いまちにしていきたいと思った。(50代、男性)

- ・大阪から6年前に引っ越してきて、今は働きながら子供2人を育てている。古参でもないし、仕事をしているから忙しいという面もあるため、ある意味では、こういう市民懇談会には一番出てこない世代かなと思う。しかし、逆にこういう場に出てきたおかげで、皆さんに対して意見を言うことができたし、運が良ければ何か採用されたらラッキーという感覚だった。守山はすごく自然も豊かで、子育てするにはすごく良い環境なので、大阪から通勤時間は長いけれど、それでも住み続けて十分楽しいところだと思う。こういう機会でもっと良くなるのであれば、参加して、良い情報を得て生活にも生かしていけたらいい。良い機会を与えていただけてありがたいと思う。(30代、女性)

### <講評(只友部会長)>

先ほど西川委員長と、テーマの順番を逆にしておいた方が良かったのではと話をしました。後半の具体的なテーマを話し合ってもらってから、市民懇談会を市の中核的な制度にしようと思うがどうかと聞いた方が良かったかもしれないと反省しています。皆さんには申し訳ないのですが、私たちは実は実験をしながら進んでいます。推進会議のメンバーも市の職員も試行錯誤をしながら実施しています。今日も寄付と税金の使い方について、また人づくりについて次々に良い意見が出されていました。このように、市民懇談会は試行錯誤を繰り返しながら、育てていくものです。この経験を市の経験に活かすことができるように、推進会議でもさらに良い制度にしていきたいと思います。また皆さんのご協力もいただきたいと思います。

詳しい日程は決まっていますが、1月の土日のどこかで同じように市民懇談会を行いたいと思います。今日出していただいた意見はかなり具体的なものなので、それを検討部会で考えている案と合わせて検討を行い、具体案のメリット・デメリットを議論していただきたいと思っています。それは、委員会で考えたものを皆さんに評価していただくということです。そしてもっといいものにブラッシュアップしていただく機会になります。それを踏まえて最終的な答申に持っていきたいと思います。最終の答申は今まで委員会と事務局が考えていましたが、今度は市民懇談会自身が参加することになりますので、是非次回も参加していただけたらと思います。市民懇談会を魂の入ったものとするように、皆で育てていきたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。